授業科目名	法学入門Ⅱ	授業科目区分	対象学期	対象学年	単位数	職名	担当教員
英　文　名	Introduction to Law in General Ⅱ	教養科目				教授	根田　正樹
ナンバリングコード	03202ＩAJ	後期	1年		2単位	講師	後藤　亜季

授業概要	法学入門Ｉの内容をもとに、法とは何か、法の解釈や目的、裁判制度、国際法とはなにか、など法律学を学ぶために必要な基本的事項を学びます。 【授業の狙い】本授業は、リーガルマインドを身につけたい学生（アドミッションポリシー2.4）、法学的な客観的視点で事象を分析し問題発見能力を身に付ける、課題解決の過程を分析し論理的思考力を身に付ける（ディプロマポリシー1，2）の開発を目指します。 【コースとの関連】全てのコースにおいて重要な科目です。
到 達 目 標	以下①・②を到達目標とします。 ①授業資料や授業で説明されたことをもとに、授業内容を理解し、説明することができる ②社会における様々な問題や授業中紹介された事例について、法的視点から捉え、考えることができる

実務経験の有無	×	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	

コンピテンシー（行動特性）「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
	○	◎	○	◎

講義方法	六法および配布資料を用いて講義する。授業中、発言を求めることがある。

授業計画	回数	内容
	第1回	オリエンテーション　法学で学ぶこと　【根田】
	第2回	法と法律　【根田】
	第3回	法の正当性　【根田】
	第4回	法の正当性を考える　【根田】
	第5回	法の成立と形式　【根田】
	第6回	法の種類（分類）　【後藤】
	第7回	法の解釈と適用①（法的三段論法）　【後藤】
	第8回	法の解釈と適用②（実践とふりかえり）　【後藤】
	第9回	法の解釈と適用③（解釈とはなにか）　【後藤】
	第10回	法の解釈と適用④（解釈技術）　【後藤】
	第11回	法の解釈と適用⑤（判例から学ぶ）　【後藤】
	第12回	法の解釈と適用⑥（実践とふりかえり）　【後藤】
	第13回	裁判制度　【後藤】
	第14回	国内法と国際法　【後藤】
	第15回	まとめ　【後藤】

評価方法		期末試験100％
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		授業中にフィードバックします。期末試験は、解答例などを掲示します
使用資料	テキスト	2024年度六法。判例付かどうかは問いません。
	参考図書	
受講上の注意、備考など		・配布した授業資料、筆記用具、六法は毎回必ず持参してください。 ・学習内容の復習、より効果的に学ぶためことを目的に、任意提出の課題や、提出不要の宿題が出ることがあります。フィードバックは授業中に行いますが、個別の対応も行いますので、オフィスアワーを活用してください。 ・期末試験の結果については、個別の問い合わせに応じます。詳細は初回の授業、期末試験時に説明します。 ・進度等により内容が変更されることがあります。 ・詳しくは初回に説明します。
事前・事後学習（学習課題）	事前	前回の授業内容の復習、指示された宿題や課題の取り組みなど　９０分
	事後	授業内容の確認　９０分
オフィスアワー		月曜日４限（後藤）、火曜日２限（根田）

授業科目名	論理学	授業科目区分	対象学期	対象学年	単位数	職名	担当教員
英　文　名	Logic	教養科目				教授	朴木　智司
ナンバリングコード	00102ＩAJ		後期	1年	2単位		

授業概要	論理学とは、正しい思考過程を経て矛盾なく物事の結論を導くために、思考の形式や法則を研究する学問です。この講義を受講する学生は、論理学という骨組みの中で正しく論理立てる技術や正しく推論する技術を学び、論理的な思考力（矛盾なく考察する力）を発揮して議論や論述ができるような技術を身に付けます。 特に論理学はいろいろな学問の基礎となっているにも関わらず、体系を理解しないまま、なんとなく利用されていることが多く、論理構成が無茶苦茶な議論や論述が行われている場合が存在します。この講義を通して、受講学生は「論理的に正しい」とはどういうことかについて深く理解し、代表的な論理学の手法を学びながら論理的思考力や問題解決力を正しく身に付けていきます。そして、その過程の中で、論理学が、思考や議論、論述において必要不可欠な道具であり手法であることを強く理解します。 【授業の狙い】この授業は、学生が「複雑化した社会を生き抜く基礎能力を身につけるディプロマ・ポリシー」（カリキュラム・ポリシー6）を実現する過程において必要な科目であり、さらに、「客観的視点で事象を分析し、問題発見能力を身につける」こと（ディプロマ・ポリシー1）や、「課題解決の過程を分析し、論理的思考力を身につける」こと（ディプロマ・ポリシー2）が実現できる科目でもあります。 【コースとの関連】すべてのコースにおいて重要な授業である
到 達 目 標	・論理的思考力や問題解決力を身に付ける。 ・自分の意見を矛盾なく口頭や文章で伝えられるようにする。

実務経験の有無	×	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	

コンピテンシー（行動特性）「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
		○	○	◎

講義方法	講義

授業計画	回数	内容
	第1回	論理学の概要（論理と言語について・命題論理と推論について）
	第2回	命題論理1－命題と真偽・集合とベン図
	第3回	命題論理2－基本的な真理関数（否定（ではない））・（選言・論理和（または））・（連言・論理積（かつ））
	第4回	命題論理3－基本的な真理関数（同値）・（ド・モルガンの法則）
	第5回	命題論理4－基本的な真理関数（条件法（ならば）と逆・裏・対偶）
	第6回	命題論理5－論理式の復習（定義等）・問題演習
	第7回	命題論理6－恒真命題（トートロジー）・恒偽命題
	第8回	命題論理7－真理値分析と推論
	第9回	命題論理8－復習と問題演習1（三段論法）
	第10回	命題論理9－復習と問題演習2（真理値分析と推論の練習）
	第11回	命題論理と伝統的論理学の違いと統一
	第12回	述語論理1－述語論理の基本概念
	第13回	述語論理2－述語論理と量化
	第14回	論理力トレーニング（接続詞の利用）
	第15回	論理力トレーニング（論証を批判的にとらえる）

評価方法		○期末試験(60%)　○課題(40%)
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		課題はチェックして返却します。試験は必ず採点後に返却するので、間違った個所を修正し課題として提出してもらいます。
使用資料	テキスト	論理の練習帳　中内伸光　共立出版　本体2,200円＋税
	参考図書	論理学（野矢茂樹）　本体2,600円＋税 論理トレーニング101題（野矢茂樹）　本体2,000円＋税
受講上の注意、備考など		この講義を受講しながら、論理学で学んだ知識が法律学でどのように活用されているのかを深く注視してみてください。今まで意識せず利用していた手法の中に、論理学で使われる基本的な手法が適用され、論理的な考察に基づいて解説・議論されていることに気づくでしょう。法律学という学問が論理学と深く結びついて構成されていることを強く認識するでしょう。 詳しくは初回に説明します。
事前・事後学習（学習課題）	事前	講義中に渡したレジメには必ず目を通し、前回取り組んだ例題や練習問題をもう一度解き直してください（1時間）。
	事後	指示した課題は次回の講義までに必ず完成させ提出してください（1時間）。
オフィスアワー		火曜日2限（A棟4階1411研究室）

授業科目名	民法総則Ⅱ	授業科目区分 対象学期	対象学年	単位数	職名	担当教員
英　文　名	General Rules of the Civil Code Ⅱ	専門科目			准教授	渡部　朗子
ナンバリングコード	03706ⅠAJ	後期	1年	2単位		

授業概要	民法は、私人間の財産関係及び家族関係に関する基本的なルールを定めた法律です。総則編、物権編、債権編、親族編、相続編の5つの分野から構成されています。この中で総則編は、民法全体（とくに財産法）に共通する制度を定めています。本講義では、民法総則編の「代理」、「時効」、「法人」の部分を学習します。講義では、民法総則における制度や概念を説明します。そして、法的な問題点（論点）やそれに関連する判例・学説を学びます。 【授業の狙い】①段階的系統的学修により専門知識を養い、リーガルマインドを身につける（カリキュラムポリシー2）、②法学的な客観的視点で事象を分析し、問題発見能力を身につける（ディプロマ・ポリシー1）、③課題解決の過程を分析し、論理的思考力を身につける（ディプロマ・ポリシー２）ことを狙いとします。 【コースとの関連】すべてのコースにおいて、重要な科目です。
到達目標	①民法総則における主な概念や制度の意義、仕組みを具体例をあげて説明できること。 ②民法総則の代理、時効、法人の分野の主要な論点に関する学説・判例の状況を説明できること。 ③条文及び判例・学説をもとに、能力、法律行為、意思表示の分野で発生する法律問題を解決するための論理的思考能力を習得すること。 ④日常生活の中で民法がどのように関わっているかに興味を持ち、自分で調査したり検討できること。 ⑤民法総則の理解をとおして、他の民法分野（物権法、債権法、親族法、相続法）との関連を理解すること。

実務経験の有無	×	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	

コンピテンシー（行動特性）「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
	○	◎	○	◎

講義方法	資料（レジュメ）に沿って講義形式による授業を行います。毎回、授業内容を確認するための課題を出します。

授業計画	回数	内容
	第1回	ガイダンス（授業の進め方、教科書・参考図書の説明、民法総則Ⅱの学習方法の解説）
	第2回	代理（1）　①代理の意義と機能　②代理関係（本人と代理人の関係）
	第3回	代理（2）　①復代理　②代理行為（要件・効果）
	第4回	代理（3）　①任意代理制度　②任意後見制度
	第5回	代理（4）　表見代理　①広義の無権代理　②表見代理
	第6回	代理（5）　無権代理　①狭義の無権代理としての無権代理人の責任　②無権代理と相続
	第7回	条件・期限・期間　①意義・要件・効果　②適用範囲
	第8回	時効（1）　①意義　②取得時効
	第9回	時効（2）　①消滅時効―意義・要件・効果
	第10回	時効（3）　完全猶予および更新　①時効障害　②時効の完全猶予および更新の意義・効果
	第11回	時効（4）　時効の完成と援用・放棄　①時効の完成と時効の効果　②時効の援用　③時効の利益の放棄と喪失
	第12回	法人（1）　法人の目的と種類　①法人に関する基本的法体系　②法人の種類と法形式
	第13回	法人（2）　法人の意義　法人でない団体の組織構造　①法人と法人格の意義・効用　②社団・財団・組合
	第14回	法人（3）　法人の設立と解散　①設立及び解散　②法人の組織及び運営
	第15回	これまでの授業のふりかえり

評価方法		学年末試験（70%）＋課題（30%）で評価します。
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		・課題、試験・レポート等の解説は、授業内及びGoogle Classroomを通じて実施します。 ・課題の限定コメントやメールにより、学生ごとにフィードバックします。
使用資料	テキスト	山本敬三監修　香川崇　竹中悟人　山城一真著　『民法Ⅰ　総則』有斐閣（2021年）（2100円＋税）
	参考図書	佐久間毅　『民法の基礎１　総則〔第５版〕』有斐閣（2020年）（3100円＋税） その他、適宜、授業中に指示します。
受講上の注意、備考など		民法総則Ⅰを履修していることが望ましい。 最新（今年度）の六法を必ず持参してください。 毎授業後に課題を出しますので、期日までに必ずGoogle Classroomへ提出してください。 授業計画の内容は、進行状況などにより適宜変更することがあります。 詳しくは初回に説明します。
事前・事後学習（学習課題）	事前	前回の授業と課題の内容を復習してください。あらかじめ次回授業のレジュメを一読しておいてください。（90分程度）
	事後	授業内容の復習と毎授業ごとの課題に取り組んでください。授業と課題のの復習ノートの作成を勧めます。（90分程度）
オフィスアワー		火曜日３限

授業科目名	刑法総論Ⅱ	授業科目区分	対象学期	対象学年	単位数	職名	担当教員
英　文　名	General Criminal LawⅡ	専門科目				教授	西尾　憲子
ナンバリングコード	03606ＩAJ		後期	1年	2単位		

授業概要	刑法は、犯罪とそれに対する制裁となる刑罰を規定した法律をいい、その中心は刑法典である。この刑法典は、1条から264条まであるが、73条以下では個別具体的な犯罪とそれに対する刑罰を規定している。刑法総論Ⅰ及びⅡでは、これら個々の犯罪及び刑罰の共通部分を解明することを任務としている刑法総論として、その中心となる刑法典第一編総則第1条から72条までに規定されている、刑法の基本原理から刑法の体系について全体構造を正確に理解し、刑法総論における解釈論上の諸問題について多面的・多角的に考察し解決する力を養う。なお、刑法総論Ⅰを履修したことを前提とした授業である。 【授業の狙い】この授業は、「段階的系統的学修により専門知識を養いリーガルマインドを身につける（CP2）」こと及び「法学的な客観的視点で事象を分析（DP1）」し「課題解決の過程を分析し、論理的思考力を身につける（DP2）」ことを目指している。 【コースとの関連】「法専門職コース」及び「公共政策コース」において重要な科目である。
到達目標	①刑法の全体像をとらえて説明できること ②刑法に関する基本原理を理解して説明できること ③刑法の体系について全体構造を説明できること ④刑罰制度の概要について説明できること ⑤刑法上問題となる論点を見つけ出しどのように解決すればよいのかについて、刑法の役割や解釈論から考えて導き出すことができる

実務経験の有無	×	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	

コンピテンシー（行動特性）「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
		○		◎

講義方法	各回の講義方法は下段の授業計画に記載する。なお、講義で身に着けた知識に基づき、論理的に考え論述を含めた確認テストを行う。

授業計画	回数	内容
	第1回	被害者の承諾・推定的承諾
	第2回	責任
	第3回	責任能力
	第4回	違法性の意識
	第5回	期待可能性
	第6回	未遂・不能犯
	第7回	中止犯
	第8回	予備罪
	第9回	共犯
	第10回	共同正犯
	第11回	教唆犯
	第12回	従犯
	第13回	共犯と身分
	第14回	共犯の諸問題
	第15回	刑罰

評価方法		成績評価の対象及び目安として、期末試験レポート70%、授業態度等30%とし、総合的に評価する。
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		講義に関する資料の共有及び提出物に関しては、Googleクラスルームを活用する。 また、課題の限定コメントを利用するなどしてフィードバックを行う。
使用資料	テキスト	大谷實『刑法総論第5版』成文堂 2018年 2,900円＋税
	参考図書	只木誠『コンパクト刑法総論第2版』新世社 2022年 2,300円＋税、髙橋直哉『刑法の授業[上巻]』成文堂 2022年 3,000円＋税（下巻あり）、『刑法判例百選Ⅰ総論第8版』有斐閣 2020年 2,300円＋税、『start up 刑法総論判例５０！』有斐閣 2016年 1,800円+税、『判例プラクティス刑法Ⅰ総論第2版』信山社 2020年 4,000円＋税、その他適宜紹介予定。
受講上の注意、備考など		授業の前に教科書、参考書及び配布資料などを事前に読んでから受講すること。 教室にそのまま着席していることが出席ではない。 自分で考えて答えを導き出せるように、しっかり自習をすること。 刑法総論Ⅰ・Ⅱは、授業内容が継続しているため、テキスト、参考図書、配布資料などすべて継続して使用する。 配布資料などは、紛失しても再配布しないので、しっかり自分自身で管理すること。 講義の進め方や試験内容、オフィスアワーについて、初回ガイダンスで説明するので必ず授業には出席すること。
事前・事後学習（学習課題）	事前	各授業内容について、教科書や参考書などを事前に読んでおくこと。（90分）
	事後	各授業時間内で説明した事例や教科書等に挙げられている課題などを自習すること。（90分）
オフィスアワー		水曜日3時限目（メールで事前に訪問希望時間を連絡して確認を受けてから訪問してください。）

授業科目名	刑法各論Ⅱ	授業科目区分			職名	担当教員
		対象学期	対象学年	単位数		
英文名	Detailed Criminal LawⅡ	専門科目			教授	西尾　憲子
ナンバリングコード	03606ⅡAJ	後期	2年	2単位		

授業概要	刑法は、犯罪とそれに対する制裁となる刑罰を規定した法律をいい、その中心は刑法典である。この刑法典は、1条から264条まであるが、73条以下の第2編「罪」では、殺人罪や窃盗罪などの個別具体的な犯罪類型とそれに対する刑罰について規定している。1条から72条は、第1編「総則」とされ、刑法総論Ⅰ及び刑法総論Ⅱで学んだとおりである。これに対応して、73条以下の第2編「罪」の部分を「各則」と呼ぶ。刑法各論Ⅱでは、この刑法各則に定められている個々の犯罪類型のうち、社会的法益及び国家的法益に関する罪について、どのような場合に適用され、また適用されないのかを検討する。なお、刑法総論Ⅰ・Ⅱ及び刑法各論Ⅰを履修したことを前提とした授業である。 【授業の狙い】この授業は、「段階的系統的学修により専門知識を養いリーガルマインドを身につける（カリキュラムポリシー2）」こと及び「法学的な客観的視点で事象を分析（ディプロマポリシー1）」し「課題解決の過程を分析し、論理的思考力を身につける（ディプロマポリシー2）」ことを目指している。 【コースとの関連】「法専門職コース」及び「公共政策コース」において重要な科目である。
到達目標	①刑法典各則に規定されている各犯罪類型につき、個々の犯罪成立要件を理解する ②判例及び通説的見解を正確に理解する ③発展的な理解として、判例及び通説的見解を基礎としながら、それらの背後にある考え方や問題点について、正しい理解のもとで、新たな解釈の可能性などを導き出せるようになる

実務経験の有無	×	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	

コンピテンシー（行動特性）「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
		○		◎

講義方法	各回の講義方法は下段の授業計画に記載する。なお、講義で身に着けた知識に基づき、論理的に考え論述を含めた確認テストを行う。

授業計画	回数	内容
	第1回	公共に対する罪・騒乱の罪
	第2回	放火及び失火の罪・出水及び水利に関する罪
	第3回	往来を妨害する罪・飲料水に関する罪
	第4回	偽造罪
	第5回	通貨偽造の罪
	第6回	文書偽造の罪
	第7回	有価証券偽造の罪・印章偽造の罪
	第8回	支払用カード電磁的記録に関する罪・不正指令電磁的記録に関する罪
	第9回	わいせつの罪・賭博及び富くじに関する罪・礼拝所及び墳墓に関する罪
	第10回	内乱に関する罪・外患に関する罪・国交に関する罪
	第11回	公務の執行を妨害する罪
	第12回	逃走の罪・犯人蔵匿及び証拠隠滅の罪
	第13回	偽証の罪
	第14回	職権乱用の罪
	第15回	賄賂の罪

評価方法		成績評価の対象及び目安として、期末試験レポート70%、授業態度等30%とし、総合的に評価する。
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		講義に関する資料の共有及び提出物に関しては、Googleクラスルームを活用する。 また、課題の限定コメントを利用するなどしてフィードバックを行う。
使用資料	テキスト	大谷實『刑法各論第5版』成文堂 2018年 3,200円＋税
	参考図書	『刑法判例百選Ⅱ各論第8版』有斐閣 2020年 2,500円＋税、『start up 刑法各論判例５０！』有斐閣 2017年 1,800円+税、『判例プラクティス刑法Ⅱ各論』信山社 4,480円＋税、その他適宜紹介予定。
受講上の注意、備考など		刑法各論は、刑法総論で学んだ内容を前提とするため、刑法総論Ⅰ及びⅡの単位を修得していること。 授業の前に教科書、参考書及び配布資料などを事前に読んでから受講するようにして下さい。 教室にそのまま着席していることが出席ではありません。 自分で考えて答えを導き出せるように、しっかり自習をしてください。 刑法各論Ⅰ・Ⅱは、授業内容が継続しているため、テキスト、参考図書、配布資料などもすべて継続して使用します。 配布資料などは、紛失しても再配布しないので、しっかり自分自身で管理すること。 オフィスアワーについては初回ガイダンスで説明する。
事前・事後学習（学習課題）	事前	各授業内容について、教科書や参考書などを事前に読んでおくこと。（90分）
	事後	各授業時間内で説明した事例や教科書等に挙げられている課題などを自習すること。（90分）
オフィスアワー		水曜日3時限目（メールで事前に訪問希望時間を連絡して確認を受けてから訪問してください。）

授業科目名	裁判法	授業科目区分	対象学期	対象学年	単位数	職名	担当教員
英文名	Japanese Justice System	専門科目				講師	隅田　勝彦
ナンバリングコード	03206ⅡAJ		後期	2年	2単位		

授業概要	１年次に学んだ民法や刑法を実現するための手続や制度の基本的な知識を学びます。２年次配当科目である民事訴訟法Ⅰ・Ⅱ、３年次配当科目である刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱの導入科目としても位置付けられます。まず、民事訴訟・刑事訴訟・憲法訴訟について、具体的な設例をもとに、それぞれの手続の概要をつかみ、その中で、基本的な用語や概念、制度を一通り学びます。次に、現在の日本に存在する五種類の裁判所の任務・構成・組織などについて、順番に学んでいきます。さらに、法制度を運用する主体である広い意味での法律家について、その歴史・任務・地位などを見ていきます。 【授業の狙い】本授業は、「複雑化した社会を生き抜く基礎能力」（カリキュラム・ポリシー６）、「課題解決の過程を分析し、論理的思考力」（ディプロマ・ポリシー２）を身につけることを目指します。 【コースとの関連】「公共政策コース」及び「法専門職コース」において重要な科目です。
到達目標	① 民事訴訟・刑事訴訟・憲法訴訟の基本的な違いについて説明できる。 ② 日本に存在する五種類の裁判所の任務・構成・組織について説明できる。 ③ 裁判官・検察官・弁護士などの法律家の任務や役割について説明できる。 ④ 民事裁判・刑事裁判・憲法裁判の基本的な仕組みと手続について説明できる。 ⑤ ①～④により、裁判所の制度や民事裁判・刑事裁判に関するルールについて、基礎的な知識を習得し、２～３年次配当科目である民事訴訟法Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱを受講する際の基本的な素養を身につけることを目標とします。

実務経験の有無	×	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	

コンピテンシー（行動特性）「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
	○	◎	○	◎

講義方法	配付したレジュメを用いて講義します。また、毎回、授業で扱った内容を確認するための小テストを行います。

授業計画	回数	内容
	第1回	法と裁判の役割（1）　民事法の実現と民事手続（1）紛争
	第2回	法と裁判の役割（2）　民事法の実現と民事手続（2）法規範
	第3回	法と裁判の役割（3）　民事法の実現と民事手続（3）訴訟
	第4回	法と裁判の役割（4）　刑事法の実現と刑事手続（1）刑事手続の目的
	第5回	法と裁判の役割（5）　刑事法の実現と刑事手続（2）適正な手続の保障・刑事裁判
	第6回	法と裁判の役割（6）　司法権と違憲審査権（1）司法権と裁判所
	第7回	法と裁判の役割（7）　司法権と違憲審査権（2）違憲審査権と司法権の独立
	第8回	裁判所制度（1）　最高裁判所・高等裁判所
	第9回	裁判所制度（2）　地方裁判所
	第10回	裁判所制度（3）　家庭裁判所・簡易裁判所
	第11回	法律家の役割（1）　裁判官
	第12回	法律家の役割（2）　検察官
	第13回	法律家の役割（3）　弁護士
	第14回	法律家の役割（4）　準法律家・法曹養成
	第15回	裁判をめぐる現代的課題　～ 司法制度改革 ～

評価方法		毎回の確認テスト（30%）　期末試験（70%）
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		毎回の確認テストは採点した上で返却し、次回の授業で解説を配布した上で説明します。 期末試験については、解答のポイントと全体の講評をGoogle Classroomに掲載します。
使用資料	テキスト	レジュメを配布します。
	参考図書	市川正人ほか『現代の裁判〔第８版〕』（有斐閣，2022年）1,700円（税別） 木佐茂男ほか『テキストブック現代司法〔第６版〕』（日本評論社，2015年）2,900円（税別） 川嶋四郎・松宮孝明編『レクチャー日本の司法』（法律文化社，2014年）2,500円（税別）
受講上の注意		六法を必ず持参してください。 法学入門、民法総則Ⅰ・Ⅱ、刑法総論Ⅰ・Ⅱの単位を取得していることが望ましいです。 詳しくは授業の初回に説明します。
事前・事後学習（学習課題）	事前	次回分のレジュメに目を通してくる（90分）
	事後	学習した範囲のレジュメやノートを読み返し、関連する文献を読む（90分）
オフィスアワー		水曜３限、木曜３限。その他、研究室に在室中は随時対応します。

授業科目名	政治学	授業科目区分 対象学期	対象学年	単位数	職名	担当教員
英文名	Political Science	専門科目			教授	髙橋　正樹
ナンバリングコード	03907ⅡAJ	後期	2年	2単位		

授業概要	政治学は政治現象（権力闘争がからむ現象）を研究する学問で、古代ギリシャのアリストテレス以来の古い歴史を有するが、いまだにパラダイム（学問としての共通の枠組みという意味）が確立しているとは言い難い。古来、様々な政治理論が提唱されてきたが、政治現象は人間の非合理的な感情や行動に大きく関係しており、現実の政治過程はダイナミックに進行する。そこで、この授業では、学生が政治学の概観的知識を獲得するとともに、国内政治の柱となる政治制度と政治団体の役割を理解できることを目指す。加えて、複雑な国際政治を見る目も養う。カリキュラム・ポリシーとして課題探求力、問題解決能力を身につける科目であり、ディプロマ・ポリシー『課題解決の過程を分析し、論理的思考力を身につける』を実現するための科目でもある。公共政策コースにとっては選択必修の科目。
到達目標	学生が 1）政治学の各分野の概観的知識を身につけることができる 2）政治制度と政治団体の機能を理解することができる 3）国際政治を見る目を養うことができる

実務経験の有無	○	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	中央政府・地方政府(都道府県・市町村において、制度設計及び行政実務に従事した経験から得られた知識・知見を学生に還元し、現実に進行する政治プロセス(過程)を動態的に考察し、国家・地方自治体の意思決定のあり方を理解する講義とする

コンピテンシー（行動特性）「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
		◎	○	◎

講義方法	教科書を中心に講義するが、公務員試験等の問題解説も織り交ぜる。

授業計画	回数	内容
	第1回	政治学とはどんな学問か
	第2回	政治学の起源
	第3回	民主政治制度の類型　議院内閣制と大統領制
	第4回	政治権力論　「権威と権力」、支配の正当性　，　民主主義の変容
	第5回	選挙と政治 ①選挙制度の類型と特徴、長所と短所　　②投票行動（国民の投票行動に影響を与えるものは？）
	第6回	選挙と政治　③我が国選挙制度の変遷と政党の動向
	第7回	選挙と政治　④政党（政党の歴史、政党の類型、政党の機能）、 ⑤政党制（一党優位政党制、二大政党制、多党制、政党法制）
	第8回	地方自治
	第9回	福祉と政治
	第10回	政治過程とステークホルダー①（官僚制と利益集団、圧力団体等）
	第11回	政治過程とステークホルダー②（市民の政治参加、情報公開、マスメディア等）
	第12回	国際政治 ①国際政治を規定するもの？　宗教・民族、地政学(大陸と海洋)
	第13回	国際政治 ②国家主権体制、国力とその要素、バランス・オブ・パワー
	第14回	国際政治 ③グローバル化、国際機構の展開
	第15回	民主政治の現在

評価方法		期末試験（70%）及び平常の講義内容の理解度を確認するレポート・小テスト(30%)
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		レポートおよび小テストを実施した場合、授業内またはClassroomを通じて、解説をする。
使用資料	テキスト	川出良枝・谷口將紀「政治学」（第2版）　東京大学出版会2200円＋税
	参考図書	授業の中で適宜紹介する
受講上の注意		六法は必携で、テキストと同等に大事。 その他くわしくは初回に説明。
事前・事後学習（学習課題）	事前	教科書の次回講義予定箇所の予習（90分）
	事後	その日の学習内容のレポート・小テストの提出及びノート復習（90分）
オフィスアワー		水曜日３限（それ以外はメールで依頼すること。）

授業科目名	経営学Ⅱ	授業科目区分	対象学期	対象学年	単位数	職名	担当教員
英　文　名	Business Administration　Ⅱ	教養科目				教授	八坂　徳明
ナンバリングコード	04807ⅡAJ		後期	2年	2単位		

授業概要	経営学Ⅰで学んだ理論をもとに、具体的な事例(ケース）をとおして経営学の基礎的な考え方を理解することを目的とする。企業が経営戦略を策定するためには、自社の経営状況の把握のみならず、競合他社の経営状況あるいは業界との比較が必要になることから、適宜、経営分析手法を取得する。財務情報を利用した企業の総合評価を行う能力の取得は、ビジネス・パースンの常識としてだけでなく、就職試験や公務員試験に対応できる知識としても役立つ。 【授業の狙い】本授業は、「課題解決の過程を分析し、論理的思考力を身につける」（ディプロマ・ポリシー2）、及び、「複雑化した社会を生き抜く基礎能力を身につける」（カリキュラムポリシー６）を狙いとします。 【コースとの関連性】すべての経営コースにおいて重要な科目である
到 達 目 標	具体的なケースを利用し、その内容を考えながら、キーワードを中心に経営学の基礎知識が身につけられる。

実務経験の有無	○	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	金融機関等における実務経験で得た知識を学生に還元する

コンピテンシー(行動特性)「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
		○	○	◎

講義方法	テキスト使用による解説とともに、資料配布等による補足説明も取り入れる。

授業計画	回数	内容
	第1回	「経営学I」で学んだこと、ガイダンス
	第2回	企業とは何か-企業の誕生（メルカリの成立と成長）
	第3回	企業とは何か-会社とは誰のものか（カゴメのファン株主拡大戦略）
	第4回	企業のストラテジー-環境・戦略・組織（フォードとGMの覇権交代）
	第5回	企業のストラテジー-競争戦略の基本型（マクドナルドとモスバーガーの戦略）
	第6回	企業のストラテジーー事業のリストラクチャリングと組織改革（GEの企業革新）
	第7回	企業のストラテジーービジネス・システム（コマツのビジネス・システムの革新とIOT）
	第8回	企業のストラテジーー破壊的技術への対応と新規事業創造（富士フイルムの企業変貌）
	第9回	企業のストラテジープラットフォーム・ビジネス（アップルのApp　Storeの展開）
	第10回	企業のマネジメント-組織理念と組織文化（リクルートの起業家精神に基づく組織文化）
	第11回	企業のマネジメント-人材のマネジメント（双日の人事管理）
	第12回	企業のマネジメント-日本的生産システム（トヨタ生産方式）
	第13回	企業のマネジメント-成熟市場における商品開発（サントリーの新飲料開発）
	第14回	企業のガバナンスー環境変化期のマーケティング活動（良品計画における危機と克服）
	第15回	企業の社会性ービジネスの倫理（JR西日本の新幹線台車亀裂トラブル）

評価方法		理解度確認のための課題提出（50%程度）、ならびにレポート（50%程度）による総合評価
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		課題については授業内で解説。試験・レポート等のフィードバックは、Google　Classroomなどを通じて適宜実施。
使用資料	テキスト	東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学』有斐閣（2,600円+税）
	参考図書	講義中で適宜紹介
受講上の注意、備考など		日頃から様々なメディアを通し、経済ニュースに関心を持ってほしい。 特に関連報道を見聞きした場合には、講義時でも構わないので進んで問題提起をしてほしい。（詳しくは初回に説明する）
事前・事後学習（学習課題）	事前	授業範囲を予習し、用語の意味等を確認しておくこと（30分以上）。
	事後	講義内容をまとめたノート（講義ノート）の作成を勧める（1時間以上）。
オフィスアワー		原則火曜日5限目（他の時間帯の場合はメールによる予約をお願いします）

授業科目名	親族法	授業科目区分 対象学期	対象学年	単位数	職名	担当教員
英　文　名	Family Law	専門科目			講師	後藤　亜季
ナンバリングコード	03707ⅡAJ	後期	2年	2単位		

授業概要	家族というプライベートで最も小さな社会集団におけるルールである親族法について学びます。親族法に関する基本的知識を習得し、紛争解決の道筋を示せるようになること、また変容する社会における親族法の課題を理解し、自分の意見を持つことを目標とします。 【授業の狙い】本授業は、家族のあり方や社会問題に興味関心のある学生、リーガルマインドを身につけたい学生（アドミッションポリシー2.4）、法学的な客観的視点で事象を分析し問題発見能力を身に付ける、課題解決の過程を分析し論理的思考力を身に付ける（ディプロマポリシー1，2）の開発を目指します。 【コースとの関連】公共政策コース、法専門職コースにおいて重要な科目です。しかし、誰もが属する家族について知ることができるため、みなさんの今後の人生に役立つ科目だと言えます。
到 達 目 標	以下①・②の目標到達を最低限の到達目標とします。 ①授業資料や授業で説明されたことをもとに、親族法の基本的知識を十分に理解し、説明することができる ②課題や事例の論点を正確に把握し、紛争解決に向けた検討ができる ③家族とめぐる現代的課題を理解し、自分の考えを持つことができる

実務経験の有無	×	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	

コンピテンシー（行動特性）「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
	○	◎	◎	◎

講義方法	六法および配布資料を用いて講義する。授業中、発言を求めることがある。

授業計画	回数	内容
	第1回	オリエンテーション ①家族法の特色　②家事事件の特色
	第2回	夫婦法①　婚姻の成立
	第3回	夫婦法②　婚姻の一般的効果 夫婦間の権利義務
	第4回	夫婦法③　婚姻の財産的効果１
	第5回	夫婦法④　婚姻の財産的効果２
	第6回	離婚法①　死亡解消、離婚概説・協議離婚
	第7回	離婚法② 有責配偶者からの離婚請求
	第8回	離婚法③　離婚に伴う子の処遇 単独親権、監護権、面会交流と養育費
	第9回	親子法①　実親子関係１
	第10回	親子法②　実親子関係２
	第11回	親子法③　養親子関係
	第12回	親子法④　生殖補助医療技術と親子関係１（生殖補助医療技術と親子法）
	第13回	親子法⑤　生殖補助医療技術と親子関係２（代理懐胎と親子法）
	第14回	親子法⑥　親権・児童虐待
	第15回	親族法に関する現代的課題

評価方法		期末試験100％
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		授業中にフィードバックします。期末試験は、解答例などを掲示します
使用資料	テキスト	2024年度六法。種類・判例付かどうかは問いません。
	参考図書	・民法判例百選III 親族・相続〔第3版〕：別冊ジュリスト 第264号　2420円 ・二宮周平　家族法　第5版　新世社　3400円（税別）円　等授業で紹介したもの
受講上の注意、備考など		・配布した授業資料、筆記用具、六法は毎回必ず持参してください。 ・学習内容の復習、より効果的に学ぶためことを目的に、任意提出の課題や、提出不要の宿題が出ることがあります。 フィードバックは授業中に行いますが、個別の対応も行いますので、オフィスアワーを活用してください。 ・期末試験の結果については、個別の問い合わせに応じます。詳細は初回の授業、期末試験時に説明します。 ・進度等により内容が変更されることがあります。 ・詳しくは初回に説明します。
事前・事後学習（学習課題）	事前	前回の授業内容の復習、指示された宿題や課題の取り組み　９０分
	事後	授業内容の確認　９０分
オフィスアワー		月曜日４限

授業科目名	国際機構論	授業科目区分	対象学期	対象学年	単位数	職名	担当教員
英　文　名	International Organization Theory	専門演習				教授	吉田　靖之
ナンバリングコード	04007ⅢAJ		後期	3年	2単位		

授業概要	20世紀初頭から21 世紀の今日に至る国際関係の特徴の一つとして、多くの国際機構が作られ、それらを通じた国際協力が著しく発展したことがあげられる。特に、第一次世界大戦後に作られた国際連盟や第二次大戦後に誕生した国際連合（国連）はその中心的な存在といえる。今日、国際機構の存在なくして国際関係を運営していくことは出来ないといっても過言ではない。本授業においては、国連について、その主要な任務である国際の平和と安全の維持を中心に概観したのち、国連の主要な司法機関である国際司法裁判所の活動をとりあげ、その意義と問題点を学ぶ。 【授業の狙い】複雑化した社会を生き抜く基礎能力を身につける（カリキュラム・ポリシー6）とともに、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題解決能力を身に着ける（ディプロマ・ポリシー1）。 【コースとの連関】「公共政策コース」においては重要な科目である。
到 達 目 標	（1）国際機構の登場及び発展の歴史的経緯について説明できる。 （2）国際機構の沿革、組織、構成、意思決定、法的主体性等について説明できる。 （3）具体的な事件を国際法的に処理する過程が説明できる。

実務経験の有無	×	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	

コンピテンシー（行動特性）「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
	○	◎	○	◎

講義方法	授業では、配布資料（レジュメ）を用いて講義する。

授業計画	回数	内容
	第1回	イントロダクション：「国際機構とはなにか／本授業の概要」
	第2回	「国際機構発展の歴史的経緯と現状／国際機構の設立・変容（創造的展開）・解散」
	第3回	「国際機構の国際法上の地位」
	第4回	「国際連合の設立と組織構造」
	第5回	「国際連合による国際紛争の平和的解決」
	第6回	「国際連合の集団安全保障」
	第7回	「国際連合の平和維持活動」
	第8回	「平和維持活動の変容・包括的平和計画実施のための平和維持活動」
	第9回	「判例研究①：国連の国際法主体性（ベルナドッテ伯殺害事件）（勧告的意見「国連総会」）」
	第10回	「判例研究②：国連の黙示的権能（国連のある種の経費事件）（勧告的意見「国連総会」）」
	第11回	「判例研究③：国連による平和と安全の維持（1）（核兵器使用の合法性事件）（勧告的意見「国連総会」）」
	第12回	「判例研究④：国連による平和と安全の維持（2）（パレスチナ占領地域における壁構築の法的効果）（勧告的意見「国連総会」）」
	第13回	「判例研究⑤：国連による平和と安全の維持（3）（ニカラグア事件）（ニカラグア v. 米国）」
	第14回	「判例研究⑥：国連による平和と安全の維持（4）（オイル・プラットフォーム事件）（イラン v. 米国）」
	第15回	授業の総括、質疑応答、フリーディスカッション等

評価方法		課題の提出状況（40%）＋平常点（授業活性化への貢献度）（10%）＋期末レポート（50%）
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		課題等が出された場合には、課題はMS Wordを使用して作成しG-Mailに添付する形で提出する。 課題に対する担当教員のコメント等は、課題提出のメールへの返信により送付する。
使用資料	テキスト	指定なし。
	参考図書	渡部茂巳、望月康恵編著『国際機構論[総合編]』（国際書院、2015年）（2,800円＋税）
受講上の注意、備考など		(1) レジュメは大学使用のGoogle classroomにuploadされているので、各人で出力して持参すること。 (2) その他、詳しくは初回の授業において説明する。
事前・事後学習（学習課題）	事前	教科書及びレジュメの授業計画に記された内容に該当する部分を熟読し、自分なりの疑問点を見つけておく。
	事後	レジュメとノートの纏めと教科書、教科書の再度の熟読による復習（それぞれ１時間程度）。
オフィスアワー		毎週水曜日３限目

授業科目名	国際法Ⅱ	授業科目区分			職名	担当教員
英　文　名	International Law Ⅱ	対象学期	対象学年	単位数		
ナンバリングコード	03407ⅢAJ	専門演習			教授	吉田　靖之
		後期	3年	2単位		

授業概要	国際法とは、主として国家間関係を規律する法である。国際法は国際社会に現実に存在する法であり、それは単なる理念や道義または政治的な便法ではなく、国際関係を理解するために必要不可欠なツールである。本学における国際法の授業は、国際社会に現実に存在し国際関係を規律する国際法を、極力具体的な事例を参照しながら包括的に理解することを目的とする。本授業においては、国際法の各論部分を学ぶ。 【授業の狙い】複雑化した社会を生き抜く基礎能力を身につける（カリキュラム・ポリシー6）とともに、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題解決能力を身につける（ディプロマ・ポリシー1）。 【コースとの連関】「公共政策コース」においては重要な科目である。
到達目標	国際法Ⅰ及びⅡは連続した講義である。それらをすべて受講することによって、国際法の全体像及び基礎理論を体系的に学び、国際社会における個別具体的な事象を法的に分析することができる。

実務経験の有無	○	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	海上自衛隊における実務経験及び防衛駐在官（外交官）のとしての実務経験で得た知識を学生に還元する。

コンピテンシー（行動特性）「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
	○	◎	○	◎

講義方法		授業では、配布資料（レジュメ）を用いて講義する（下記「受講上の注意事項」参照）。
授業計画	回数	内容
	第1回	イントロダクション、「国際法Ⅰ」からの連接、本授業の範囲、概要及び授業の進め方。海洋法（1）－海洋法の歴史と展開、法典化の歴史：ジュネーヴ海洋法条約から国連海洋法条約の成立－（教科書第10章）
	第2回	海洋法（2）－国連海洋法条約による海域の区分（内水の法的地位、領海、群島水域、大陸棚、EEZ，公海、深海底、島等）－（教科書第10章）
	第3回	海洋法（3）－国連海洋法条約による海域の区分（続き）－（教科書第10章）
	第4回	海洋法（4）－海上法執行活動、海洋紛争の平和的解決（事例研究）－（教科書第10章）
	第5回	国際化地域（公海、空、宇宙、国際河川、運河、南極、宇宙空間）（教科書第9章）
	第6回	国際環境法－環境保護、環境責任等－（教科書第16章）
	第7回	国際法における個人－国籍、外国人の地位、犯罪人引渡、難民保護、個人の国際犯罪、国際刑事裁判所等－（教科書第11章、13章）
	第8回	国際人権法－人権保障の史的発展、人権規約、個別条約等－（教科書第12章）
	第9回	国際紛争の平和的解決－国際機構による紛争解決、仲裁裁判、国際司法裁判所等－（教科書第17章）
	第10回	安全保障（1）－国際法上の力の行使、勢力均衡から集団安全保障への移行、国連の集団安全保障体制、自衛権－（教科書第18章）
	第11回	安全保障（2）－国連の集団安全保障の理想と現実、事例研究（主として冷戦後）－（教科書第18章）
	第12回	武力紛争法（1）－武力紛争法に関する基本的事項、適用に関する問題－（教科書第18章、19章）
	第13回	武力紛争法（2）－戦闘員資格、戦闘の手段及び方法の規制、戦争犠牲者の保護－（教科書第19章）
	第14回	武力紛争法（3）－履行確保、中立法－（教科書第19章）
	第15回	軍備管理・軍縮法（教科書第18章）／授業総括

評価方法		課題の提出状況（40%）＋平常点（授業活性化への貢献度）（10%）＋期末レポート（50%）
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		課題等が出された場合には、課題はMS Wordを使用して作成しG-Mailに添付する形で提出する。 課題に対する担当教員のコメント等は、課題提出のメールへの返信により送付する。
使用資料	テキスト	浅田正彦編著『国際法第5版』（東信堂、2022年）（2,900円＋税）
	参考図書	加藤信行他著『ビジュアルテキスト国際法第3版』（有斐閣、2022年）（2,400円＋税）
受講上の注意、備考など		（1）講義においては、次のいずれかの条約集を個人で取得して携行しなければならない。浅田正彦他編『ベーシック条約集』（東信堂）（¥2,860）：岩沢雄司編『国際条約集』（有斐閣）（¥3,080）。できれば最新のそれを入手しておくことを推奨するが、3～4年程度であれば多少古いものでも支障ない。 （2）レジュメは大学使用のGoogle classroomにuploadされているので、各人で出力して持参すること。 （3）その他、詳しくは初回の授業において説明する。
事前・事後学習（学習課題）	事前	教科書の授業計画に記された内容に該当する部分を熟読し、自分なりの疑問点を見つけておく。
	事後	レジュメとノートの纏めと教科書及び参考図書の再度の熟読による復習（それぞれ１時間程度）。
オフィスアワー		毎週水曜日３限目

授業科目名	担保物権法	授業科目区分 対象学期	対象学年	単位数	職名	担当教員
英文名	Collateral Property Law	専門科目			准教授	渡部 朗子
ナンバリングコード	03707ⅢAJ	後期	3年	2単位		

授業概要	担保物権は民法典第二編「物権」の後半に定められている留置権、先取特権、質権、抵当権です。その他に非典型担保（譲渡担保等）があります。金銭の貸し借りをする場合、貸主が借主から資金を回収し、返済を確実にするために担保を要求します。そのための担保の中でも物的担保は、不動産や価値のある動産を担保として提供させるものです。担保物権法はこのような物的担保について規定しています。授業では、制度の説明と判例や学説が採用する解釈論を整理します。 【授業の狙い】①段階的系統的学修により専門知識を養い、リーガルマインドを身につける（カリキュラムポリシー２）、②法学的な客観的視点で事象を分析し、問題発見能力を身につける（ディプロマ・ポリシー1）、③課題解決の過程を分析し、論理的思考力を身につける（ディプロマ・ポリシー２）ことを狙いとします。 【コースとの関連】公共政策コースと法専門職コースにおいて、重要な科目です。
到達目標	①担保物権法上の基本的な法律用語を正しく理解し使用できるようになること。 ②担保物権の種類や内容を説明できるようになること。 ③担保物権法上の問題に対して、判例や学説の立場を反映させて、論理的な文章で解答することができるようになること。 ④条文及び判例・学説をもとに、担保物権法の分野で発生する法律問題を解決するための論理的思考能力を習得すること。 ⑤担保物権法の理解をとおして、他の民法財産法分野（総則、物権法、債権総論、債権各論）や民事手続法（民事執行法等）を理解すること。

実務経験の有無	×	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	

コンピテンシー（行動特性）「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
	○	◎	○	◎

講義方法	資料（レジュメ）に沿って講義形式による授業を行います。毎回、授業内容を確認するための課題を出します。

授業計画	回数	内容
	第1回	ガイダンス（授業の進め方、教科書・参考図書の説明、担保物権法の学習方法の解説）
	第2回	担保物権の概要　①担保物権の機能　②担保物権の種類　③担保物権の通有性　④他分野の権利との比較
	第3回	抵当権（1）　①意義　②法的性質　③抵当権の設定　④抵当権の効力が及ぶ範囲
	第4回	抵当権（2）　抵当権の及ぶ範囲（物上代位）　①意義　②物上代位の手続―要件・効果
	第5回	抵当権（3）　法定地上権　①意義・制度趣旨　②要件　③判例・学説の立場　④一括競売
	第6回	抵当権（4）　抵当権の効力　①建物明渡猶予制度　②代価弁済　③抵当権消滅請求
	第7回	抵当権（5）　抵当権の処分　①転抵当　②抵当権の譲渡・放棄　③抵当権の順位の譲渡・放棄
	第8回	抵当権（6）　抵当権実行手続　①担保不動産競売　②担保不動産収益執行 第2回～第7回までの授業のふりかえり
	第9回	抵当権（7）　共同抵当　①意義・要件　②同時配当　③異時配当
	第10回	根抵当権　①意義　②設定　③個別規定　　前回までの授業の補足
	第11回	質権　　①意義　②動産質　③不動産質　④権利質
	第12回	留置権　①法定担保物権と約定担保物権　②留置権の意義・要件・効果　③留置権の消滅
	第13回	先取特権　①意義　②先取特権の種類　③先取特権の順位　④先取特権の効力
	第14回	非典型担保（1）　譲渡担保
	第15回	非典型担保（2）　①仮登記担保　②所有権留保　　前回までの授業のふりかえり

評価方法		学年末試験（70%）＋課題（30%）で評価します。
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		・課題、試験・レポート等の解説は、授業内及びGoogle Classroomを通じて実施します。 ・課題の限定コメントやメールにより、学生ごとにフィードバックします。
使用資料	テキスト	松井宏興　『担保物権法〔第2版〕』成文堂（2019年）　（2500円＋税）
	参考図書	道垣内弘人　『担保物権法―現代民法Ⅲ〔第4版〕』有斐閣（2017年）（3200円＋税） 内田貴　『民法Ⅲ　債権総論・担保物権〔第4版〕』東京大学出版会（2020年）（3900円＋税）
受講上の注意、備考など		物権法、債権総論を履修していることが望ましい。 最新（今年度）の六法を必ず持参してください。 毎授業後に課題を出しますので、期日までに必ずGoogle Classroomへ提出してください。 授業計画の内容は、進行状況などにより適宜変更することがあります。 詳しくは初回に説明します。
事前・事後学習（学習課題）	事前	前回の授業と課題の内容を復習してください。あらかじめ次回授業のレジュメを一読しておいてください。（90分程度）
	事後	授業内容の復習と毎授業ごとの課題に取り組んでください。授業と課題のの復習ノートの作成を勧めます。（90分程度）
オフィスアワー		火曜日３限

授業科目名	労働法Ⅱ	授業科目区分	対象学期	対象学年	単位数	職名	担当教員
英　文　名	Labor LawⅡ	専門科目				非常勤講師	永由　裕美
ナンバリングコード	03506ⅢAJ		後期	3年	2単位		

授業概要	授業では、職業生活においてどのような場面でどのような法的規制・保護があるのかを学び、現実にどのような問題が起きているのかを考えます。具体的には、個別的労働関係法（雇用関係の成立から終了、労働時間、賃金等）を中心とした知識習得を目指します。また、最近の労働法、労働関係に関するトピックスのうち、「労働法Ⅰ」の講義で取り扱わなかった分野についても学習します。 【授業の狙い】ディプロマポリシー「法学的な客観的視点で事象を分析し､問題発見能力を身につける」こと、及びカリキュラムポリシー「段階的系統的学修により専門知識を養いリーガルマインドを身につける」ことを実現するための科目です。 【コースとの関連】公共政策コース（行政系公務員）、企業人コースにおいて重要な科目です。 法専門職コースにおいてやや重要な科目です。
到 達 目 標	①職業生活においてどのような場面でどのような問題が起こりうるのかを理解できる。 ②職業生活において起こりうる諸問題に対して労働法はどのような規制、保護を行っているのかを説明できるようになる。 ③これから社会人となる上で､最低限必要な知識を身につける。

実務経験の有無	○	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	厚生労働省所管の研究機関における実務経験で得た知見を学生に還元する。

コンピテンシー（行動特性）「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
	○	◎	○	◎

講義方法	授業では配付資料等を用いて講義する。理解度確認のための小テストを行う場合がある。

授業計画	回数	内容
	第1回	オリエンテーション
	第2回	団体交渉
	第3回	労働協約
	第4回	賃金(1)−賃金体系、賃金の支払方法
	第5回	賃金(2)−最低賃金法など
	第6回	労働時間
	第7回	休憩・休日
	第8回	時間外・休日労働
	第9回	休暇・休業
	第10回	人事異動（1）ー配置転換
	第11回	人事異動（2）ー出向
	第12回	懲戒処分
	第13回	労働条件の変更
	第14回	労働契約の終了
	第15回	安全衛生と労災補償

評価方法		中間試験及び期末試験またはレポート(80%)、授業中に行う小テストや授業中の発言内容等(20%)を総合的に判断する。
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		試験及びレポート課題については、授業時間内にフィードバックしたり、解答例や正解を紙媒体等で配布する。
使用資料	テキスト	授業中に配布するレジュメに基づくので、特に教科書は指定しません。
	参考図書	○別冊ジュリスト『労働判例百選』（第10版）有斐閣(2022年、2400円＋税) ○ジュリスト増刊『労働法の争点』有斐閣(2014年、2600円＋税)
受講上の注意、備考など		労働法Ⅰを受講していることが望ましい。 労働関連法規が掲載された六法を持参すること。 詳しくは初回授業時に説明します。 課題の提出を怠ったりすると単位の修得は困難となる。
事前・事後学習（学習課題）	事前	授業ごとに前回の授業内容に関するおさらいを行うので、60分程度の復習をしておくこと。
	事後	授業終了時に指示する教科書該当部分や課題の学習(60分程度)
オフィスアワー		月曜日2限の授業終了時

授業科目名	刑事訴訟法Ⅱ	授業科目区分	対象学期	対象学年	単位数	職名	担当教員
英　文　名	Criminal Procedure Ⅱ	専門科目				講師	隅田　勝彦
ナンバリングコード	03607ⅢAJ		後期	3年	2単位		

授業概要	刑事訴訟法という科目は、大きく「捜査」と「公判」に分かれます。刑事訴訟法Ⅱでは「公判」を勉強します。「公判」では、当事者の攻撃・防御を通して適正な事実認定や量刑をするためのルールや制度を学習します。刑事訴訟は、伝統的には公判手続を中心に形成され、事実認定を誤らないようにするための様々な方策が設けられています。「公判」の中心は証拠法ですが、視聴覚教材なども用いながら、公訴の提起から判決手続までを概観して日本の刑事裁判手続についての具体的なイメージをつかんだ上で、証拠法の細かいルールに入っていくことにします。 【授業の狙い】本授業は、「複雑化した社会を生き抜く基礎能力」（カリキュラム・ポリシー６）、「課題解決の過程を分析し、論理的思考力」（ディプロマ・ポリシー２）を身につけることを目指します。 【コースとの関連】「公共政策コース」及び「法専門職コース」において重要な科目です。
到 達 目 標	広い意味では、自由かつ公正で多様性のある社会を維持するために、法的にどのような仕組みが必要となるのかを学び、さらには、刑事手続にとどまらず実社会においても、事実を認定して結論を出す場合、その目的と事柄の性質に応じて、どのような要件や手続が求められるのか、また、その手続の中で考慮すべき要素は何であるのかを自ら探求できるようにすることを目指しますが、より具体的には、次の３点を到達目標とします。 ①日本の刑事法運用がどのような手続で進められているかを説明できる。 ②公判段階における各手続の位置付けや意味などを説明できる。 ③公判手続で用いられる用語について正確に説明できる。

実務経験の有無	×	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	

コンピテンシー（行動特性）「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
	○	◎	○	◎

講義方法	配付したレジュメを用いて講義します。また、毎回、授業で扱った内容を確認するための小テストを行います。

授業計画	回数	内容
	第1回	公訴の提起　～ 公訴提起の基本原則，公訴提起の方式，起訴状一本主義 ～
	第2回	公判の準備　～ 公判準備の手続，被告人の勾留と保釈 ～
	第3回	公判の手続（1）　～ 冒頭手続，証拠調べ，弁論（1）　～
	第4回	公判の手続（2）　～ 冒頭手続，証拠調べ，弁論（2）　～
	第5回	裁判員制度　～ 陪審制と参審制，日本における国民の司法参加，裁判員の参加する手続 ～
	第6回	自白法則と補強法則　～ 自白排除の根拠と基準，補強証拠と補強法則 ～
	第7回	伝聞法則（1）　伝聞法則の意義と根拠
	第8回	伝聞法則（2）　伝聞法則の例外（1）
	第9回	伝聞法則（3）　伝聞法則の例外（2）
	第10回	排除法則（1）　～ 排除法則の根拠・基準 ～
	第11回	排除法則（2）　～ 判例の動向，派生証拠の排除 ～
	第12回	公判の裁判・上訴（1）　～ 裁判の意義・種類，形式裁判と実体裁判，上訴の意義・種類 ～
	第13回	上訴（2）・再審　～ 控訴・上告，再審の意義，再審手続 ～
	第14回	特別手続　～ 略式手続，簡易公判手続，即決裁判手続 ～
	第15回	少年事件の手続　～ 少年事件の特徴，捜査段階の特則，公判手続の特則 ～

評価方法		毎回の確認テスト（30%）　期末試験（70%）
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		毎回の確認テストは採点した上で返却し、次回の授業で解説を配布した上で説明します。 期末試験については、解答のポイントと全体の講評をGoogle Classroomに掲載します。
使用資料	テキスト	レジュメを配布します。
	参考図書	寺崎嘉博・長沼範良・田中 開『刑事訴訟法〔第６版〕』（有斐閣，2020年）2,400円（税別） 三井誠・酒巻匡『入門 刑事手続法〔第９版〕』（有斐閣，2023年）3,000円（税別） 池田公博・笹倉宏紀『刑事訴訟法』（有斐閣，2022年）2,100円（税別）
受講上の注意、備考など		六法を必ず持参してください。 刑法総論Ⅰ・Ⅱ、裁判法の単位を取得していることが望ましいです。 詳しくは授業の初回に説明します。
事前・事後学習（学習課題）	事前	次回分のレジュメに目を通してくる（90分）
	事後	学習した範囲のレジュメやノートを読み返し、関連する文献を読む（90分）
オフィスアワー		水曜３限、木曜３限。その他、研究室に在室中は随時対応します。

授業科目名	保険法	授業科目区分 対象学期	対象学年	単位数	職名	担当教員
英　文　名	Insurance Law	専門科目			教授	高倉　史人
ナンバリングコード	03707ⅢAJ	後期	3年	2単位		

授業概要	保険は私達にとって大変身近な存在である。例えば、盗難・火災・自然災害に関する損害保険、自動車に関する自動車保険、死亡・病気・ケガ・介護などに関する生命保険、入院・診療に関する傷害疾病定額保険がある。そして、保険法はこれらの保険における契約のルールを定めた法律である。また、保険法の知識は、保険会社、銀行、証券会社などに就職を希望する学生にとって非常に有益である。 本講義では損害保険、生命保険、傷害疾病定額保険に関する内容と判例を解説する。 【授業の狙い】①段階的系統的学修により保険法の専門的知識を養いリーガルマインドを身につける（CP2）②総合的学修による課題探求力、問題解決能力を身につける（CP5）③保険法の理論や保険法に関する判例を学ぶことで、学生は保険法に関する理解を深め、法学的な客観的視点で事象を分析し問題発見能力を身につける(DP1) ④課題解決の過程を分析し論理的能力思考力を身につける(DP2)。 【コースとの関連】企業経営コースとって重要な科目である。
到　達　目　標	(1)保険法に関する基本的知識を修得することができる。 (2)具体的な事例を通して学説や判例を学び、保険法の問題点を考察する力をつけることができる。 (3)将来なんらかの形で保険契約をする場合に役立つ法知識を習得修得することができる。 (4)保険会社、銀行、証券会社などの就職に役に立つ法知識を習得することができる。

実務経験の有無	×	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	

コンピテンシー（行動特性）「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
	○	◎	○	◎

講義方法	配布資料を用いて講義する。また、課題を出す。適宜Q&Aを行う。

授業計画	回数	内容
	第1回	ガイダンス
	第2回	保険と保険法の仕組みと内容
	第3回	保険法の共通事項①－保険契約の成立
	第4回	保険法の共通事項②－保険契約の内容
	第5回	損害保険の仕組みと内容
	第6回	損害保険の特質①-保険事故と損害補てん
	第7回	損害保険の特質②－保険代位、海上保険
	第8回	火災保険と地震保険の内容
	第9回	自動車保険の内容
	第10回	生命保険の仕組みと内容
	第11回	生命保険の特質-生命保険契約の成立、変動、終了
	第12回	傷害疾病定額保険の仕組みと内容
	第13回	傷害疾病定額保険の特質①－疾病保険契約
	第14回	傷害疾病定額保険の特質②－ガン保険契約
	第15回	まとめ

評価方法		試験の成績（70%）、課題（30%）を中心に総合的に評価する。
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		提出された課題に対して学生ごとにフィードバックする。期末試験や課題には解答例を示す。
使用資料	テキスト	講義時に資料を配布する。
	参考図書	神作裕之・藤田友敬編『商法判例集』第9版（有斐閣、2023年）（3,700円＋税）
受講上の注意、備考など		商法総則・商行為法、会社法1・Ⅱを履修しておくことが望ましい。 講義中の私語や携帯電話等の使用を禁止。六法を持参。 詳しくは初回に説明する。
事前・事後学習（学習課題）	事前	前回の授業の内容の復習、講義終了時にに指示する該当部分の予習(60分)
	事後	授業内容の復習、課題及び新聞購読など（60分）
オフィスアワー		水曜日3限

授業科目名	金融論Ⅱ	授業科目区分 対象学期	対象学年	単位数	職名	担当教員
英文名	Monetary EconomicsⅡ	専門科目			教授	金岡　克文
ナンバリングコード	04607ⅢAJ	後期	3年	2単位		

授業概要	金融論は経済学においてその中心分野のひとつです。その知識を身につけることは、金融に関係する職に就くことを目指すためには必須ですが、日常生活を送る上でも重要な意義を持ちます。現代社会を支える金融についての知識を学ぶことは、「複雑化した社会を生き抜くための基礎能力を身につける（カリキュラム・ポリシー）」こととなり、「２１世紀型市民として相応しい正義感・倫理感・判断能力・行動力を身につける（ディプロマ・ポリシー）」にもつながります。 本講義では、金融論Ⅰの内容を基礎に、より具体的に金融機関や金融市場についての知識が身に付くように講義を行っていきます。この講義は金融機関への就職を考えている企業経営コースの学生には必須の科目です。
到達目標	①金融機関について基本的な事項を理解する。 ②金融市場について基本的な事項を理解する。 ③企業のファイナンスに関して基礎的な事項を理解する。 ①～③について社会人として恥ずかしくないだけの知識を持つ。金融機関を志望するものは金融関連職種の面接などにも対応できるようになる。

実務経験の有無	×	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	

コンピテンシー（行動特性）「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
	○	○	○	◎

講義方法	パワーポイントを使い、配布したレジュメに要点を記入する形で講義を進めていきます。

授業計画	回数	内容
	第1回	ガイダンス
	第2回	金融機関１　銀行①（間接金融と直接金融）
	第3回	金融機関１　銀行②（銀行組織と信用創造）
	第4回	金融機関１　銀行③（都市銀行・メガバンクの成立）
	第5回	金融機関１　銀行③（地方銀行）
	第6回	金融機関１　銀行⑤（第２地方銀行とその他の銀行）
	第7回	金融機関２　銀行以外の金融機関①協同組織金融機関（信用金庫と信用協同組合）
	第8回	金融機関２　銀行以外の金融機関②協同組織金融機関（その他）
	第9回	金融機関２　銀行以外の金融機関③長期金融機関（旧長期信用銀行）
	第10回	金融機関２　銀行以外の金融機関④長期金融機関（信託銀行）
	第11回	金融機関２　銀行以外の金融機関⑤保険会社
	第12回	金融機関２　銀行以外の金融機関⑥ノンバンク
	第13回	金融市場１　短期金融市場と長期金融市場、インターバンク市場
	第14回	金融市場２　オープン市場
	第15回	中央銀行について、ふりかえり

評価方法		受講態度（レジュメ記入・課題提出classroom）３０％、試験（小テスト含む）７０％
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		提出した課題についてはコメントをつけ、質問に答えます(classroom)。
使用資料	テキスト	なし（レジュメを配布）
	参考図書	『金融読本（第32版）』東洋経済新報社（税抜き価格2,400円）
受講上の注意、備考など		講義内容に興味を持って，積極的に質問し，講義をより有意義なものとすることに協力してください。予習として、新聞などの経済･経営面に目を通すこと。また、配付したレジュメに復習として、しっかりと講義内容を自分なりにまとめてみてください。なお、講義の計画は変更することがあります。 詳しくは初回に説明します。
事前･事後学習（学習課題）	事前	新聞の経済・経営面に目を通すようにしてください（1時間）。
	事後	課題提出(classroom)（1時間）。
オフィスアワー		月曜日３限

授業科目名	専門特殊講義 環境法	授業科目区分 対象学期	対象学年	単位数	職名	担当教員
英　文　名	Environmental Law	専門科目			准教授	渡部　朗子
ナンバリングコード	03808ⅢAJ	後期	3年	2単位		

授業概要	環境法は、広く環境保護に関する法令を総称したものです。環境は、大気、水、土壌など様々な要素から構成されていますが、産業活動、廃棄物、都市開発などの原因により脅かされる可能性があります。そのために大気汚染防止法、廃棄物処理法等があります。授業では、これらの個別の法令を理解するとともに、各法令に共通する基本的な理念・原則・手法や、裁判を通した環境問題の事例を解説します。環境法の基本的な内容を理解して、環境問題を検討、分析できるようにします。 【授業の狙い】①総合的学修による課題探求力、問題解決能力を身につける（カリキュラムポリシー5）。②法学的な客観的視点で事象を分析し、問題発見能力を身につける（ディプロマ・ポリシー１）ことを狙いとします。 【コースとの関連】すべてのコースで特殊科目と位置づけられます。
到 達 目 標	①既存の法分野（憲法、民法、行政法）の理解を土台として、環境法に関する基本的時効を理解すること。 ②新聞やニュースで取り上げられる問題を環境法の観点から把握して、理解できるようになることを目標とする。 ③環境法に基づいて、様々な環境問題を検討・分析できるようにする。

実務経験の有無	×	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	

コンピテンシー（行動特性）「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
	○	◎	○	◎

講義方法	資料（レジュメ）に沿って講義形式による授業を行います。授業中質問をすることがあります。

授業計画	回数	内容
	第1回	ガイダンス（授業の進め方、環境法の学習方法の説明）　環境法入門（公害問題・環境問題の発生と展開）
	第2回	環境法の基本理念・基本原則　①環境法の体系・構造　②環境法の基本原則の内容
	第3回	環境基本法　①公害対策基本法から環境基本法へ　②環境基本法の概要
	第4回	環境影響評価の法制度　①環境アセスメントの考え方　②環境影響評価法の概要
	第5回	環境紛争を解決する方法―司法・行政的手続きと被害者救済
	第6回	大気汚染と法　①日本の大気汚染の歴史　②大気汚染防止法の概要　③自動車排出ガスの対策
	第7回	水質汚濁と法　①水質汚濁問題の背景　②水質汚濁防止法
	第8回	土壌汚染と法　①土壌汚染問題の背景　②土壌汚染対策法の仕組み　③環境法の基本原則との関係
	第9回	廃棄物と法　①廃棄物処理法の仕組み　②不法投棄などに対する法制度
	第10回	リサイクルと法　①廃棄物処理とリサイクルの法体系　②循環型社会基本法　③個別のリサイクル法
	第11回	原子力と法・化学物質と法　①原子力法と環境法　②化学物質と法の基本的な考え方　③アスベスト問題
	第12回	自然保護と法　①人間中心主義と自然中心主義　②自然保護の法的仕組み
	第13回	地球環境問題と法　①地球温暖化問題　②気候変動枠組条約と地球温暖化対策法
	第14回	環境訴訟　①民事訴訟　②公害紛争処理法　②行政訴訟
	第15回	環境法総論　①公害・環境問題と環境基本法　②環境権・人格権論　　授業のふりかえり

評価方法		学期末試験（70%）と授業時のレポート（30%）により評価します。
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		・課題、試験・レポート等の解説は、授業内及びGoogle Classroomを通じて実施します。 ・課題の限定コメントやメールにより、学生ごとにフィードバックします。
使用資料	テキスト	小賀野晶一　『基本講義　環境問題・環境法〔第2版〕』成文堂（2021年）（2800円＋税）
	参考図書	『環境法判例百選〔第3版〕』有斐閣（2018年）（2900円＋税） 上智大学環境法教授団編『ビジュアルテキスト環境法』有斐閣（2020年）（2400円＋税） 大塚直編『18歳から始める環境法〔第2版〕』法律文化社（2018年）（2300円＋税）
受講上の注意、備考など		授業計画の内容は、進行状況により適宜変更することがあります。 環境法や環境問題に興味を持ってください。 詳しくは初回に説明します。
事前・事後学習（学習課題）	事前	教科書や参考図書で授業計画の内容に該当する箇所をあらかじめ読んでおいてください。（90分程度）
	事後	授業の内容を復習して、ニュースで取り上げられている問題などと照らし合わせてください。（90分程度）
オフィスアワー		火曜日３限

授業科目名	専門特殊講義 経営戦略論	授業科目区分 対象学期	対象学年	単位数	職名	担当教員
英　文　名	Strategic management	教養科目			教授	八坂　徳明
ナンバリングコード	04808ⅢAJ	後期	3年	2単位		

授業概要	経営戦略という企業が成長する拠り所となる基本方針を体系的に習得することを目的とする。 経営戦略の基本コンセプトを経営戦略論の発展過程を踏まえたうえで理解し、経営戦略立案のために多用されているベーシックな分析手法を事例を通じてその有効性につき検証する。これらの考察を踏まえ、最新のビジネストレンドの中での成長産業、成長企業の事例を確認し経営戦略モデルの類型化を図る。 企業戦略モデルを活用し、企業分析を実施する。企業分析は、受講者各自が興味のある企業を選定し、経営戦略の視点から分析し、その成果を自らの就職活動にも役立ててもらうよう工夫を施します。 【授業の狙い】本授業は、「課題解決の過程を分析し、論理的思考力を身につける」（ディプロマ・ポリシー2）、及び、「総合的学修による問題探求力、問題解決能力を身につける」（カリキュラムポリシー６）を狙いとします。 【コースとの関連】企業経営コースにおいて重要な科目である
到 達 目 標	「企業はどうあるべきか」という企業の基本的機能を中心とした戦略論が習得できる。 自ら関心のある企業につき、企業分析を行うことにより、経営戦略のメカニズムを体得する。

実務経験の有無	○	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	金融機関等における実務経験で得た知識を学生に還元する

コンピテンシー（行動特性）「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
		○	○	◎

講義方法	テキスト使用による解説とともに、資料配布等による補足説明も取り入れる。

授業計画	回数	内容
	第1回	経営戦略の基本コンセプト：事業経済性の活用（その１）
	第2回	経営戦略の基本コンセプト：事業経済性の活用（その２）
	第3回	経営戦略の基本コンセプト：自社の強みの構築と活用
	第4回	経営戦略の基本コンセプト：戦略の動向プロセスとラーニング（その１）
	第5回	経営戦略の基本コンセプト：戦略の動向プロセスとラーニング（その２）
	第6回	実務に使えるフレームワーク：環境分析と戦略立案（その１）
	第7回	実務に使えるフレームワーク：環境分析と戦略立案（その２）
	第8回	実務に使えるフレームワーク：資源配分と戦略立案
	第9回	実務に使えるフレームワーク：戦略のマネジメント
	第10回	経営戦略の応用：事業創造の戦略（その１）
	第11回	経営戦略の応用：事業創造の戦略（その２）
	第12回	経営戦略の応用：事業創造の戦略（その３）
	第13回	経営戦略の応用：グローバル経営の戦略（その１）
	第14回	経営戦略の応用：グローバル経営の戦略（その２）
	第15回	経営戦略の応用：競争優位の再考

評価方法		平常点(含発表)　(50%)、レポート（50%）を評価。
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		課題については授業内で解説。試験・レポート等のフィードバックは、Google　Classroomなどを通じて適宜実施。
使用資料	テキスト	グロービス経営大学院編『グロービスＭＢＡ経営戦略』ダイヤモンド社2,800円＋税
	参考図書	講義中で適宜紹介
受講上の注意、備考など		講義での積極的な発言、主体的な参加を期待します 詳しくは初回に説明する。
事前・事後学習（学習課題）	事前	授業範囲を予習し、用語の意味等を確認しておくこと。(60分以上)
	事後	講義内容をまとめたノート（講義ノート）の作成を勧める。（６０分以上）
オフィスアワー		原則火曜日5限目（他の時間帯の場合はメールによる予約をお願いします）

授業科目名	専門特殊講義 犯罪学	授業科目区分 対象学期	対象学年	単位数	職名	担当教員
英　文　名	Criminology	専門科目			教授	西尾　憲子
ナンバリングコード	03608ⅢAJ	後期	3年	2単位		

授業概要	犯罪学とは、犯罪の原因と発生している現象の究明、犯罪の主体である犯罪者及び犯罪から直接被害を被った被害者側から犯罪原因の究明を内容とする。「専門特殊講義犯罪学」では、社会の中で犯罪が発生しないようにするためにできること、犯罪の発生を予防するため及び発生した犯罪を制圧するためにできること、それぞれについて、これまで研究されてきた犯罪原因論及び犯罪学理論を学ぶ。そして、現代社会に発生している犯罪現象にどのように対応すればよいのかについて、犯罪学理論を用いて検討する。 【授業の狙い】この授業は、「総合的学修による課題探究力、問題解決能力を身につける（CP5）」こと及び「法学的な客観的視点で事象を分析し、問題発見能力を身につける（DP1）」こと並びに「課題解決の過程を分析し、論理的思考力を身につける（DP2）」ことを目指している。 【コースとの関連】「法専門職コース」及び「公共政策コース」において重要な科目である。
到 達 目 標	社会で起きている事象に関心を寄せて自らの意見を発言できる 社会で起きている事象から社会を分析することができる 事象の原因を検討して解決策を考察することができる

実務経験の有無	×	実務経験のある教員等による授業科目の学修成果	

コンピテンシー（行動特性）「伸ばすことのできる能力」	協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力
		○		◎

講義方法	各回の講義方法は下段の授業計画に記載する。なお、講義で身に着けた知識に基づき、論理的に考え論述を含めた確認テストを行う。

授業計画	回数	内容
	第1回	刑事政策と犯罪学、犯罪学の意義・体系、対象・方法
	第2回	暗数と刑事政策
	第3回	犯罪原因としての素質と環境（鬼神論的犯罪学理論から素質説・環境説、多元的原因論）
	第4回	精神医学的・生物学的原因論（犯罪人類学から犯罪生物学及びその継承）
	第5回	心理学的原因論（犯罪心理学の起源から精神分析学的犯罪学理論）
	第6回	社会学的原因論①（文化地域を中心とする理論）
	第7回	社会学的原因論②（文化葛藤を中心とする理論）
	第8回	社会学的原因論③（社会構造に中心をおく理論）
	第9回	社会学的原因論④（社会統制に中心をおく理論）
	第10回	社会学的原因論⑤（社会的相互作用を中心とする理論）
	第11回	社会学的原因論⑥（社会的実体を中心とする理論）
	第12回	社会学的原因論⑦（社会的絆中心とする理論）犯罪学における犯罪予測と刑事政策
	第13回	被害者を中心におく理論（犯罪被害者の視点から分析する犯罪への対応）
	第14回	修復的司法（犯罪対策としての一視点として検討）
	第15回	犯罪動向に向き合う犯罪対策と犯罪学理論の検討（例:各種犯罪に関する検討、犯罪予測、環境犯罪学など）

評価方法		成績評価の対象及び目安として、期末試験レポート70%、授業内提出物30%として評価する。
課題(試験やレポート等)のフィードバック方法		講義に関する資料の共有及び提出物に関しては、Googleクラスルームを活用する。 また、課題の限定コメントを利用するなどしてフィードバックを行う。
使用資料	テキスト	特別に指定しないが、必要に応じて随時説明する。
	参考図書	犯罪白書・警察白書等の司法統計資料、新聞、その他テーマに応じて、適宜説明する。
受講上の注意、備考など		刑法総論Ⅰ・Ⅱ及び刑法各論Ⅰ・Ⅱの単位は修得済みであること。 授業計画については犯罪学理論を示しているが、社会で起きている犯罪現象と理論を組み合わせて学びたいと考えている。 講義で扱ったテーマや社会状況に積極的かつ自発的に関心を持ち、自ら現状と問題について分析し、問題解決のための対応や対策を検討し、これを自分の理解をもとに自分の表現で論述することができるようになるためのトレーニングとして活用して欲しい。 また、状況に応じて、受講生がお互いの意見を聞き、質疑応答を行いながらディスカッションまで発展させたいと考えている。 講義の進め方や試験内容、オフィスアワーについて、初回ガイダンスで説明するので必ず授業には出席すること。
事前・事後学習（学習課題）	事前	新聞やニュースなどをとおして、最近の社会問題などに対して、まずは関心を持つことから始めてほしい。（90分）
	事後	自分が関心を持った社会問題について、講義をとおして学んだ知識を生かし、今後の課題とその解決策について考察してほしい。（90分）
オフィスアワー		水曜日3時限目（メールで事前に訪問希望時間を連絡して確認を受けてから訪問してください。）